

今年の夏に、字小橋川の方言調査を行いました。小橋川は、方言でクウシチャといいます。みなさん、知ってました？

クウシチャでは、大城助真さん、大嶺盛義さん、大城トミ子さん、呉屋清昌さん、宮城幸信さんからお話をうかがいました。

調査は、一問一答の形式で行われますが、その合間には戦前のクウシチャの様子や、学校の先生の話まで出てきて、盛り上がることもしばしば。

この調査で、一番印象的だったのは、みなさんが、年長者である助真さんのことを、「ヤッチー」と呼んでいたことでした。

ヤッチーとは、「兄、にいさんを意味する方言。昔は士族だけが用いた。平民は〈アフィー〉、貴族は〈ヤチメー〉という。出身階級によって〈兄〉も呼び方が異なっていたが、現在では〈アフィー〉も〈ヤチメー〉も死語になり、〈ヤッチー〉だけが残っている。しかし、家庭でも〈ヤッチー〉と呼ぶ家はほとんどなくなり、わずかに職場や団体など、集団のなかで親しみをこめた〈兄貴〉の意で使われている。ヤッチーの対語は、〈ンミー〉

(姉)という。『沖縄大百科事典』」

クウシチャでは、ヤッチーの対語であるンミーも聞き取ることができました。

また、助真さんによると、「クウシチャにはタンメーと呼ばれていたおじいさんが三名いた」といいます。

タンメーも、士族が使うことばといわれています。盛義さんによると、「名が知れていた人に使っていたんでしょね。」とのこと。

西原は、首里に近く、士族のことばの影響を受けていると思われます。ほかにも、祖父母などのことばに、各字首里方言の影響がみられ、おもしろく感じられました(これはまた次の機会に)。

しかし、クウシチャのヤッチーのように、生きたことばを耳にできるのも、今だからこそ可能なのでしょうか…？

